

介護困りごと相談 どげしたら、いいかね？



認知症の介護の困りごとや疑問について、介護経験者の方や専門家からのアドバイスを紹介します。



自宅にいても、「帰ります」と言い、外に出ようとするので困っています。どうしたらよいでしょうか？



短期入所施設のスタッフ A さん

施設ではソワソワされるご様子が見られたら、早めに「どうされましたか？」と聞くようにしています。お腹が空いていたり、トイレに行きたい場合も多いので、声かけをして誘うと落ち着かれます。

気になる事があると、またソワソワされる事のくり返しになるので、どうしたいのかをゆっくり聞いたり、しばらく様子を見守ったりします。

介護経験者 B さん

外に出ようとするのを引き止めようとすると怒り、言い争いになっていました。その繰り返しに私が疲れて、時間を決めて、後ろからついて歩くようにしたり、一緒に散歩に出かける機会を作ってみました。

いつも歩いているので、近所の人が声をかけてくださったり、お話をする機会が増えました。散歩から戻ると、夫の満足そうな顔がみられるようになりました。

ケアマネジャーからのアドバイス

きっと何か外に出たい理由があると思います。まずはご本人にお話を聞いてみましょう。それからどうしたらよいかを考えてみてはいかがでしょうか。



- 1、好きなものや興味のあることに話しを向けてみると、案外、気持ちが変わるきっかけになるかもしれません。
- 2、ご心配であれば、衣類や靴に連絡先を書いたり、出雲市社協の「SOS メール安心ネットワーク事業」への事前登録をおすすめします。

やすらぎの家居宅介護支援事業所 TEL 23-9555
介護支援専門員：野淵(のぶち) 紀美子

編集後記

明るい日差しの中で、フキノトウが頭を出していました。フキノトウ味噌、天ぷら、味噌汁などと、味わい方はいろいろあります。子供の頃はあの苦味が苦手でしたが、年を重ねるにつけ、苦味こそ、まさに早春の味と思えるようになりました。

待ち遠しかった、暖かな春はもうすぐそこですね。



やすらぎの家だより 第43号

社会福祉法人やすらぎ福祉会・やすらぎの家デイサービス・やすらぎの家居宅介護支援

発行所 出雲市大津町西谷 2604-8

平成31年3月26日発行

TEL(0853)23-9555 ホームページ <http://izumo-yasuragi.org>

発行責任者 日野 和子



お点前 頂戴いたします



お茶の作法を見せながら指導をして下さいました。

新年を祝っての初釜では、「お客さんがいると、うちはずいつも薄茶を出しとったよ」と大正生まれの方が、率先してお茶を点てて下さいました。以前、地区のコミセンで毎月のお茶会に参加していたと話される方がおられ、喜んでお茶を点てられました。娘時代には、お茶やお花を習っていたという方が多くいらっしゃいます。

「ありがたいね。おばあさんにあやかかって、長生きができそうだわ」と、昭和生まれの方が自分で点てるより、大正生まれの方が点てられたお茶を飲むほうがよいと話されていました。

縁起のよい初釜で、新しい一年が始まりました。

デイサービス ほっとコーナー

うたの会



歌の会は、いつも皆さんのリクエスト曲で楽しめます。今回は第九を原語で歌ってみましたよ！



さあ みなさん
一緒に歌いましょう！



わたしの仕事



あら！
ここにも穴が！

こたつ敷きがほころび、穴があくとすぐ当て布をして繕って直されます。



お隣の畑から届いた大きな大根！さっそく洗って煮しめにしようかな！



ほら！こんなに
かわいいうさぎ
ができたよ～



私は何を願
いしよう…
やっぱり子供の
ことかなあ…

願いを託し、つるし雛



出雲市で世界平和を祈り『つるし雛』で世界ギネスに挑戦するとの事。みんなで協力しようと、うさぎの人形を作り始めました。

お願い事を書いて、うさぎのおなかの中に収めて仕上げます。平和の願い、家族の健康、いろいろな思いを託しました。



震災への祈り



3月11日14時46分、皆さんで8年前の東日本大震災の慰霊式典をみて、黙祷をしました。
「あれから8年経つんだね」「大変なことだったね」
二度とこのような災害が起こりませんように。

懐かしの昭和物語

何気ない会話の中で見つけた、心に残る「昭和の暮らし」を紹介していきます。

はぎれで作ったお手玉。「昔は三つでも四つでも投げちよったわね！」両手で器用にお手玉すると、子供のころに歌ったかぞえ唄。「いくつになってもおぼえとるもんだねえ…」

「♪…一番初めは伊勢神宮
二は日光の東照宮
三は讃岐の金毘羅さん…♪」

「五つ出雲の大社（おおやしろ）だが～！やっぱり大社さんだわねえ」「そげだね！私らは大社さんに守られちょ～だけんね、ありがたいことだわ～」

かぞえ唄



介護こぼれ話

「施設に入れるのは、申し訳ないような気がして、迷ってるんだわ…。申し込みはしてたけど、いざ入所が決まると言われると、どうしたらいいかと思って…」

認知症の介護を続ける時、「(いつまで)家で見ていけるのか」という、戸惑いや迷いを少なからずみなさんが抱えておられると思います。やすらぎの家で出逢った介護家族の方々も、迷いながら決断をする時を迎えてこられていました。

介護のために介護者の健康や生活が維持できなくなることは、ご本人にとっても決して本意ではないと思います。施設に入っても、住む場所が違うだけで、家族であることに変わりはありません。介護をプロに委ねて、家族としての交流を続けておられる方を見るにつけ、ご本人にとっても良かったのだと思います。

施設入所を考えるとき